

PainDETECT





開発の経緯

疼痛に対して神経障害性疼痛と侵害受容性疼痛を鑑別することを目的に開発された疼痛鑑別スクリーニング評価ツールです。

評価の方法

質問票によるスクリーニングツールのため、特に必要とする機材はなく、質問票と鉛筆のみで評価を行います。疼痛の段階付 7 項目、疼痛の経過パターン 1 項目、疼痛の広がり 1 項目の、全 9 項目の合計で採点されます。合計点を算出し、合計点は 0 点から 38 点満点で示されます。

PainDETECT Questionnaire

項目	スコア
疼痛の段階付*	
・痛みのある部位では、焼けるような痛み(例:ヒリヒリするような痛み)がありますか?	0-5
・ピリピリしたり、チクチク刺したりするような感じ(虫が歩いているような、電気が流れているような感じ)がありますか?	0-5
・痛みがある部位を軽く触れられる(衣服や毛布が触れる)だけでも痛いですか?	0-5
・電気ショックのような急激な痛みの発作が起きることはありますか?	0-5
・冷たいものや熱いもの(お風呂のお湯など)によって痛みが起きますか?	0-5
・痛みのある場所に、痺れを感じますか?	0-5
・痛みがある部位を、少しの力(指で押す程度)で押しても痛みが起きますか?	0-5
疼痛の経過パターン	
あなたの痛みの経過を示す図として、どれが最もあはまりますか?	
 持続的な痛みで、痛みの程度に若干の変動がある	0
 持続的な痛みで、時々痛みの発作がある	-1
 痛みが時々発作的に強まり、それ以外の時は痛みがない	+1
 痛みが時々発作的に強まり、それ以外の時も痛みがある	+1
疼痛の広がり	
痛みは他の部位にも広がりますか? はい/いいえ	+2/0

*選択項目: 0;一度もない、1;ほとんどない、2;少しある、3;ある程度ある、4;激しい、5;非常に激しい

信頼性、妥当性

合計点は神経障害性疼痛と侵害受容性疼痛の鑑別において、感度 85%、特異度 80%と高く、鑑別診断の予測精度が 83%との報告があります。

結果の活用方法

評価する対象者の疾患は限定されるものではなく、広く活用できる評価です。0~12 点は、神経障害性疼痛の要素の可能性がほとんどない侵害受容性疼痛と解釈されます。13~18 点は、診断結果はどちらとも言えませんが、神経障害性疼痛の要素が含まれます。19~38 点は、神経障害性疼痛の要素が病態のほとんどを占める神経障害性疼痛と解釈されます。

使用例

Freyenhagen らは腰痛患者に対してドイツにおける多施設間研究による調査を行い、約 8000 人に対する使用報告を行っています。この結果をもとに一般的なドイツ人における腰痛患者の中の神経障害性疼痛患者の有病率を計算すると、神経障害性疼痛の患者は女性の 14.5%、男性の 11.4% であったと報告しています。

【参考文献】Freyenhagen R, Baron R, Gockal U, et al: PainDETECT: a new screening questionnaire to detect neuropathic components in patients with back pain, Curr Med Res22:1911-1920, 2006

平成 25 年 8 月 1 日作成 日高リハビリテーション病院 理学療法士 井上大介